

旭川医大病院 ニュース

病床稼働率向上について(要請) 病院長 吉岡 一

題字は吉岡病院長
 (編集)
 旭川医科大学医学部附属
 病院広報誌編集委員会
 委員長 並木教授(三内)

本学といたしまして去る十月二十四日開催の第十二回附属病院運営委員会において、五十九年度の病床稼働目標率八二・五%を確保することが了承され、また十一月十四日開催の同委員会においては、各診療科における五十九年度下期および当該年度通年の病床稼働目標率を設定するとともに、空床の実状を把握しながら教育・研究面とは別次元のものとして、暫定的に、かつ良識的に可能な限度において他診療科が空床を活用することおよびその手順がそれぞれ了承されたところであり、

ちなみに、今年度における上期の稼働実績は、各月とも前年比にて二・五、四・一%の増となっており、上期通算では八一・二%と前年上期(七七・八%)に比し三・四%の増となっており、そのご尽力とご努力には衷心より敬意を表すところであり、

しかしながら、今年度の目標率の八二・五%と比較した場合に、上期の通算率

および十月の実績は、ともに目標率に達しておらず、このカパー分を含め推計により、下期の各月平均は八四・一%(一日平均五〇五床)を維持していかなければ、このたび意思決定された結果を得ることが至難な状況にあると危惧せざるを得ないところであり、

この目標率の達成には相応の覚悟と決意が必要となり、この時点においては、例えて申し上げますと、診療科内での協力体制はもとより、適切な入院管理、等可能な限りをつくした工夫、改善によって対応していかなければならないものと痛感するところであり、

また、例年十二月および一月は、稼働率が極端に落ち込む傾向にあり、折角の上昇分を相殺してしまふ結果となっており、この点についての留意も特に必要ではなからうかと考へるところであります。一方、本年十二月および六〇年一月の両月は、特に稼働率強化月間」と定め、下降現象をくい止めるべきと

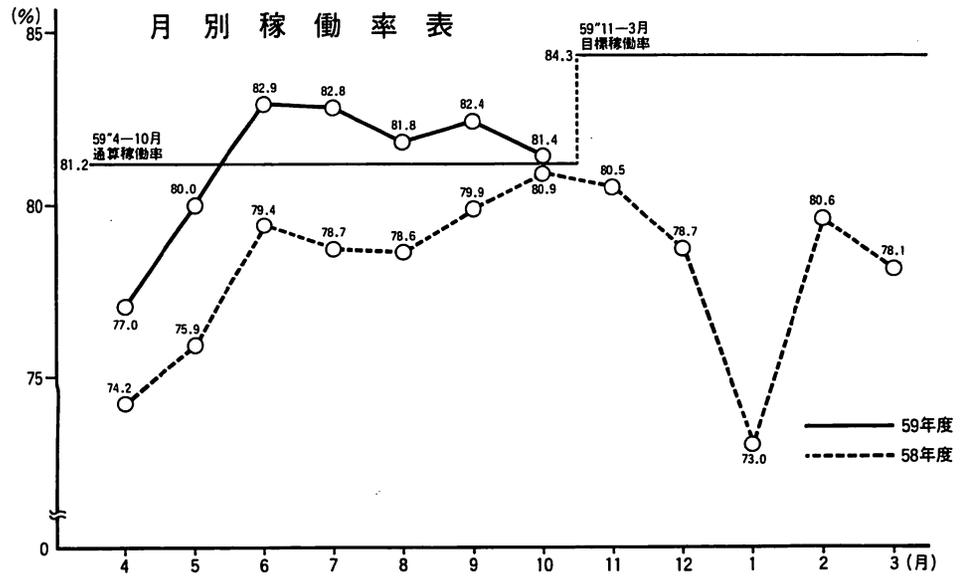
の提唱も承つておるところであります。

本学、本院の発展を希求するごとき、各診療科および各部局の真摯なご意見をも拝聴しつつ、この非常事態を乗り切り、稼働率達成を決定しているところであり、

つきましては、関係各位の絶大なご理解とご協力を心底からお願ひするものであります。

また、今日における財政事情等につきまして若干附言致し、ご理解を深めていただきますれば幸甚であります。

申すまでもなく、今日における国の財政事情は真に深刻な状況下にあります。国立大学関係の昭和五十九年度予算(国立学校特別会計)におきましては、人件費のみでも七〇・七%を占めており、残りの二九・三%のシエアで大学等の要求に可能な限り応えるという趣旨のもとで、その源資を得るために、諸策を講じて編成されたものであります。設定された歳入見込額は余裕のないぎりぎりのものとなっております。その一部としまして、特に今年度は従前とは異なり、病床稼働率の確保が至上課題となっており、これが、確保できない場合には、病院運営の所要額の縮減がな



れ、例えば、薬品、X線フィルム、医療材料等の購入に支障を生ずる事態も予測されますため、本学を始め各医科系大学においてもかかる事態に立ち至ることを忌避するために、相当の努力がなされているところであり、

力があります。このような事情を十分ご勘考いただき目標稼働率の達成のため、なお一層のご協力を重ねてお願ひする次第であります。